



市大キャラクター
『ヨッチー』

震災後のメンタルヘルス支援に生かす ネパールのトリブバン大学医学部と協定を締結

横浜市立大学医学部は、ネパール・カトマンズ市のトリブバン大学医学部（※1）と部局間協定を締結しました。これを踏まえ、本学グローバル都市協力研究センター（※2）公衆衛生ユニットと、トリブバン大学医学部との間で共同研究を実施し、2015年4月に発生したネパール大地震の被災者のメンタルヘルスにおける現状を調査し、その関連要因を明らかにする予定です。日本では先行研究において、地震における被災経験が成人・子ども双方の心的外傷後ストレス障害（PTSD）やうつ病、子どもの問題行動等と関連することが指摘されています。今後は、震災後のメンタルヘルスに影響を与える要因について、ネパール・日本相互の共通点や相違点を比較し共有することで、両国の被災者支援に役立てることが期待されます。

1. 締結日 2016年10月28日（金）トリブバン大学にて

2. 協定内容

- （1）共同研究の推進とそれに関連する国際協力活動
- （2）教員及び学生の人的交流を通じた教育・研究活動
- （3）学術情報の交流

3. 今後の展開（予定）

- （1）大学間、さらにネパール国内のNGO等と連携し、研究で得られた成果を論文や公式報告書等で発信するなど両国の被災者支援に生かす。
- （2）学生間の国際交流を実施。



右：Saroj Prasad Ojha 教授

（トリブバン大学精神医学部長）

中：Bimar Kumar Sinha 教授

（トリブバン大学医学部長）

左：本多由起子 特任助教

（本学グローバル都市協力研究センター）

※1：1959年に設立されたネパール最古の国立大学。所在地はカトマンズ。学部は医学・工学・林業・農学・理工等からなる。医学部の学生数は約1,600名。トリブバン大学医学部は、2015年4月に発生したネパール大地震後の健康支援に際して、急性期の救急医療や、メンタルヘルス支援に関する奉仕活動、メディアを使ったメンタルヘルス支援情報の提供に尽力した経緯がある。

※2：アジアの各都市が抱える問題や課題の解決を目指す大学間ネットワーク「アカデミックコンソーシアム」を推進。アカデミックコンソーシアムでは「環境」「まちづくり」「公衆衛生」の3つのユニットで活動を展開し、持続可能な社会をめざして、都市の諸問題を解決し、地域や世界に貢献することを目標としている。